

市長記者会見記録

日時：2018年6月29日（金）14時～14時25分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：市政一般

<内容>

《ホテルシップの誘致について》

【司会】 ただいまより市長記者会見を始めます。本日の議題は、市政一般となっております。

早速、質疑に入らせていただきますが、進行につきましては、幹事者様、よろしくお願いたします。

【幹事社】 川崎市も名乗りを上げているホテルシップなんですけれども、横浜とか東京ではアメリカの船会社が決まったり、都内でもスイスの船会社の誘致が決まったりしているんですけれども、川崎の誘致の現状と今後の見通しみたいなものをお示しいただけますか。

【市長】 今回の議会でもご質問をいただいて、その中でもお答えしている部分でありますけれども、ぜひホテルシップ誘致に向けて、その課題の整理とどういった誘致が可能なのかということについて積極的に情報収集し、対応について検討を進めているところでございます。

【幹事社】 現状は、ほかの自治体が決まっている中で厳しいのでしょうか。

【市長】 今の段階で、すいません、厳しいかどうかというのはちょっとわかりかねますけれども。

【幹事社】 何か、市長が今お考えになっている課題というのは。

【市長】 やはり、川崎は旅客のバースを持っているわけではありませんので、まず、物流の障害とならないことが第一でありますし、岸壁の整備の必要の有無だとか、下水の処理の課題等々、クリアしなければならないことが幾つかあると思いますので、総合的に判断していかなくちゃいけないだろうなと思います。

【幹事社】 私のほうは以上です。

《本市情報システムについて》

【幹事社】 先日の議会で野田議員のほうからも、システムの不備によって不祥事がこの数年、相次いでいるという現状があると思うんですけれども、まずこのことにつ

いて、市長のご見解並びに所感というのをお願いします。

【市長】 前の会見でも答えたような気がしますが、システムの更新時の不備だとか、システム障害によってというのは、本当にここ数年続いていて、市民生活に大きく影響が出たということに対して、大変申しわけなく思っています。非常にシステム自体が複雑に絡み合っているので、影響が非常に大きく広がりやすいという傾向になってきているかなと思います。ですから、日々というか、数年単位のシステム更新だとか、そういったときに、これまで以上に検証し、これまでの失敗が生きるようにやっていかなければいけないなどは思っています。

【幹事社】 その中で、ICT推進課のほうとかにも、今年度末までにそういったことが起きないように、対策の策定を進めるといった旨のことがあったと思うんですけども、そこで聞いた限りですと、そのシステムをつくる入りの段階で、もうちょっと業者と密に策定に向けて行っていく旨を聞いたんですけども、一方で、弊社でもニュースにしている原稿を見ますと、市がどうこうというより、業者側が出してきたものが間違っているということが結構、往々にしてあったと思うんです。先方（業者側）とのコミュニケーションの仕方とか、齟齬がないようにどういうふうに進めたらいいと市長は考えていますか。

【市長】 一般論での話になるのですが、よく同じようなサービスを行政がやっているのだから、なるべくフォーマットを統一すればいいという話があるんですが、自治体の規模だとか、提供しているサービスの差などが複雑なので、どうしても独自のシステムを作らざるを得ない。もう少しコスト低減のために、共通化できるものはないのかという議論はいつもあるのですが、なかなかそこが難しく、オリジナルバージョンという形になっている。こういうものが欲しいという現局の立場と、システムが本当にわかって、それをうまくつなぎ合わせるというところが、これは本当にすごく大きな課題だと思っているのですが、そこをやはり何重にもチェックしていくということが、これまでの問題から浮き彫りになってきていると思います。そういったところを繰り返しやっていくしかないかなと思っています。

《サッカーワールドカップについて》

【幹事社】 はい。ありがとうございます。

ちょっと話が違って、ワールドカップ、今、市長もご覧になられていますか。

【市長】 見えています。

【幹事社】 まだ、川崎フロンターレの大島選手は出場していないんですけども、昨日、決勝トーナメント進出が決まったというところで、決勝トーナメントに向けて、

もし大島選手が出場するようなことがあれば、どのようなプレーを見たいかと考えていますか。

【市長】 日本代表の活躍はものすごくうれしいですけど、私たち川崎市民、あるいはフロンターレサポーターにとっては、やっぱりワールドカップで大島選手の活躍を見たいという思いはすごく強いので、それは私も全く同様ですね。次のベルギーとの戦いは、ぜひ出てもらいたいと願っております。

【幹事社】 幹事社、以上です。各社さん、お願いいたします。

《ブロック塀調査について①》

【記者】 先日の会見で、教育長から指示をしたという報告があった学校のブロック塀の点検の状況。27日まで調査をしたということを伺っていますけど、その結果というのはどういうふうにお考えですか。

【市長】 私も会見の直前に報告を受けたところですけども、報告の結果ですが、大阪府で起きた事例と全く同類のような、公道に面していて、プールに塀があるという学校がございまして、南河原小学校と梶ヶ谷小学校の2校が確認できたということです。

これは目視による調査でありますので、詳細な調査が必要ということで、そのようにするよう指示したところですけども、安全確認ができるまでは、プールに面していますので、授業については中止ということで、既に、詳細がわかるまで控えるという形で、教育委員会を通じて学校に伝わったということがございます。

【記者】 今のところ2校で、そういう同様の塀があった。それ以外は、対象は57校だったと思うんですけども、ちょっとすいません。細かい話で……。

【市長】 いえいえ。

【記者】 その点検のほかに、もっと詳細な確認が必要じゃないかと思われるような学校というのはあったのでしょうか。

【市長】 目視での調査で、同様なプールというような形状のものについては2校あったということでありますけれども、他のことについては、現在精査中ということでございます。おそらくプール以外のところをより詳細に調査しなければならないと教育委員会も言うておりまして、その調査を引き続きやっていると聞いています。

【記者】 地震の発生から大分時間もたっていて、それで不安に思っているいらっしゃる保護者の方も結構な数がいらっしゃると思うんです。その状況で、この発生からこれだけ時間がたっているんですが、いまだにどんな、とりあえずこういう状況なんですということが示され、まだ市長のところに報告が上がっていないということなんです

ようから、その現状について、スピード感というのはどういうふうに捉えていらっしゃると思いますか。

【市長】 私もちよつと議論はさせてもらったんですけども、今、同じような形状以外のものについても、安全をどうやって確認していくかということについて、非常に難しいものがあるようです。建築基準法に適合しているのか否かという問題と、適合の有無だけではなくて、安全性というのをどういうふうに確認していくか。ですから、この2校のことについては、いわゆる非破壊調査というのでしょうか、そういうものを行って、まず確認するという段取りに入っていくと。その他の塀などについても、やはり建築基準法に合致しているのか、していないかという問題と、それ以外の安全性の部分はどう確認していくのかというのは、より詳細な調査が必要だということとであります。

いたずらに不安をあおってはいけませんし、ただ、注意喚起もしっかりやっていかなければいけないという両面で、しっかりこれからやっていくということとあります。

《ウーロンゴン市姉妹都市連携30周年記念訪問について》

【記者】 わかりました。

ちよつと話が違って、先週聞けばよかったんですけど、来週、ウーロンゴン市の視察の中で、多文化交流省、シドニーの市街までわざわざ行かれて、視察に行かれるようなんですけど、そこは日程的に市長のほうからリクエストして入れたような形なんではないでしょうか。

【市長】 せっかくなので、オーストラリアは非常にマルチカルチャーの国ですから、そういったものが今回の10年ごとのウーロンゴン市との覚書の中にも、こちらからのリクエストで入れさせてもらったのですが、そういった知見をお互いに学び合うとか、むしろこちらのほうが学ぶことが多いんだと思うのですが、そういった意味で、同じ州内のところの取組なので、勉強させていただきたいというリクエストをして、そうなったということです。

【記者】 多文化といいますと、今、喫緊の市で取り組んでいるものとしては、ヘイトスピーチ対策というものがあると思うんですけども、その辺の現地でどういうことを、取組をしているかというようなことも聞いて参考にすることなのではないでしょうか。

【市長】 ヘイトスピーチだけに限らずということで、どういう前向きな、多文化を1つの価値として持っている国ですから、その取組というのは大いに学ぶべきところがあるのではないかなという期待をして、調査をしてきたいなと思っています。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

《ブロック塀調査について②》

【記者】 先ほどのブロック塀の話なんですけれども、大阪のブロック塀と同様のおっしゃられましたけれども、その同様のというのは、公道に面していて、プールを遮蔽するという意味での同様ということですか。

【市長】 そういうことです。

【記者】 例えば高さが同様とか、後から継ぎ足したというような意味の同様ではなくて、条件として同様ということ。

【市長】 そのように聞いています。要するに公道に面していて、かつ、プール裏とか、表とか、目隠しがブロック塀になっていてという構造になっているものということですか。

【記者】 それについては、直ちに危険かどうかという判断は今後の調査によるということですね。

【市長】 はい、そうですね。

【記者】 その調査については、専門家の方が今度には行かれるというような感じなんですか。

【市長】 はい。建築職もそうですし、いわゆる非破壊検査になると外注しないといけないということですね。外注しないといけないということでもありますから、そういった段階にこれから入ってまいります。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

《中学校給食について》

【記者】 すいません。ちょっと5月の話で恐縮ですが、給食に関して、食育の場面の取材をさせていただきました。市長も生田中学校に行かれて、一緒に喫食をされまして、そのときにちょっと聞いておけばよかったんですが、改めて教えてください。

昨年の秋の選挙の前に、なぜ待機児童対策でゼロにできたかというのでいろいろ、体制、職員の意志、モチベーションの高さ、政治的な意志で待機児童ゼロというのを成し遂げたと解説をいただきました。そのときにあわせて聞いておけばよかったんですが、給食はなぜいろいろ外的な要因でちょっと延びたりはしましたが、市長の1期目に導入することができたのか。例えば職員の意志の高さであるとか、あと、もしくは市長の成績、指示、意志の高さなのか。どの辺にこの4年以内でできた要因があると市長は捉えていらっしゃるのか、改めてお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】 これは待機児童と全く同じようなことだと思っています。それは、私の公

約で力を入れてきたことというのは、それは当然でありますけれども、それ以上に、待機児童問題よりも、早期実証を求める議会の議決があったのと同時に、これまで、市のPTAを含めてずっと中学校給食というのを熱望されていた。それから、何と言っても、実施に当たっては、保護者、教員、校長会、PTA、それから、本市の職員、教育委員会の担当、栄養士含めてみんなの意志が非常によくまとまった取組だったということだと思います。よく街角で、給食ありがとうねとか言われるんですけど、いやいや、私じゃなくてという話はしますが、やはり、みんなの思いが結集したから、いい形に進んだと私は思っています。

【記者】 平成26年の秋ぐらいには、体制も、要は人員の拡張もしていますが、やはり物理的にも、人も投入しないと成し遂げられないというのを判断して、あそこで人を増やしたと捉えていらっしゃいますか。

【市長】 そうですね。かなりあのときの担当職員の苦労というのは、スケジュール管理もウイークリーではなくて、デイリーで何をすべきなのかということは何カ月先も割り振っていましたので、それが本当に1日遅れるとなかなか難しいというぐらいタイトなスケジュールの中でやっていたということを思い返しますと、やはり、みんなの相当な苦労があったのだと思います。

【記者】 この件に関しては最後なんですけど、ちょっと抽象的なんですけど、大都市で、ゼロだったものを始める、給食を始めるということ、市長としてどの辺をご苦労なさったり、ハードルをやっと頑張って越えたと思っいらっしゃいますか。

【市長】 やはり、どのレベル感でも、非常にハードルが高かった部分は、給食センターをやるのでも、まずは土地探しの面でも、どこでやるのかという難しさがありましたし、そして、喫食数が全国でも最大級のセンター化ということになりますし、細長い都市部における渋滞状況を考えると配送時間ということも含めて、全てのあらゆる段階で難しさがあったと思います。そういう意味では、本当によくやってくれたと思いますし、奇跡的なマネジメントだったと思います。

【記者】 ありがとうございます。

【幹事社】 今の給食のことについて関連なんですけれども、県の西部でも、例えば大磯であったり、ほかのところでも、わりと中学校給食の実現に向けて動きが進んでいると思うんですけども、川崎にほかの自治体から、訪問して給食を実施するためのそういったアドバイスを求めたりするというような動きとか何かはありますか。

【市長】 どれぐらい来ているかという数はあれですけど、相当な数が来ているということを聞いています。ちょっと数はわかるかな。数については後ほど。

【幹事社】 はい。お願いします。

【市長】 相当来ていると聞いてます。

【幹事社】 それはもう県内外ということですね。

【市長】 はい。

【記者】 以前、兵庫県尼崎のほうからも来ていると言われていたんですけども、具体的にどのようなアドバイスとか、こうしたほうがいよみみたいなことをおっしゃっているのか、おわかりになる範囲で。

【市長】 すいません。私自身が立ち会ってないものですから。

【幹事社】 ありがとうございます。

《浮世絵等の活用について》

【記者】 すいません。少し前の話になってしまうんですが、浮世絵の無償貸与が3,000点まとまった数を、砂子の里資料館さんからあるということなんですけれども、私の取材させていただいた限りでは、大分、国内でもまとまった数のご貸与かなと思います。まず、こういった貸与があったことへのご感想と、あと、立地的に空港とमुखく近い位置にいるということで、特に外国人の方々の集客というのも望みやすいかなと思います。浮世絵は大分外国の方に人気のようですので、そういったことでの観光地としてのコンテンツとしての期待値みたいなものをあわせてお伺いしたいと思います。

【市長】 ありがとうございます。まず、貸与していただいたことに対しては、本当に深く感謝を申し上げたいと思いますし、それはやはり市外からも相当なオファーというか、ぜひ貸してほしいというお話がある中で、いろいろな方から川崎にどうしても、どんな形でもやはり残してもらって、本市の宝としてということに、皆さんの声ということにご理解をいただいたんだと思います。ご本人の川崎、地元に対する思いということも重なって、いい形でできたと思っています。これは本当にうまく活用させていただき成功させないといけないなと思っています。特に、今おっしゃっていただいたような羽田空港隣接ですので、まさに羽田空港は京急線で15分で来るところに、駅前という立地を活かしてインバウンドの皆さんにも、大変、海外の方に浮世絵はすぐ人気ですので、ぜひそれをまちの活性化に活かしていきたいと思っています。

それと、やはりインバウンドの人たちだけじゃなくて、川崎の地元の浮世絵もあつたり、本当に世界屈指のコレクションですので、本当にいいものがたくさんあるので、地元川崎の市民の皆さんにも多く触れていただける、最高のチャンスなのではないかと思っていますので、今後、よくPRしていきたいなと思っています。

【記者】 3,000点の浮世絵の保管場所としては、今、京急さんが絡んでいらっしやったかなと思うんですが、今後、市のほうでは、保管についてはどのようなアプローチといたしますか、どのように絡んでいかれるのでしょうか。

【市長】 どなたかわかる方、いますか。ちょっとわからないな。ごめんなさい。ちょっとそれは、正確を期したことを後ほどでよろしいでしょうか。申しわけありません。

【記者】 ありがとうございます。

【幹事社】 ほかいかがでしょうか。大丈夫でしょうか。

【司会】 よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして市長会見を終了いたします。どうもありがとうございました。

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355